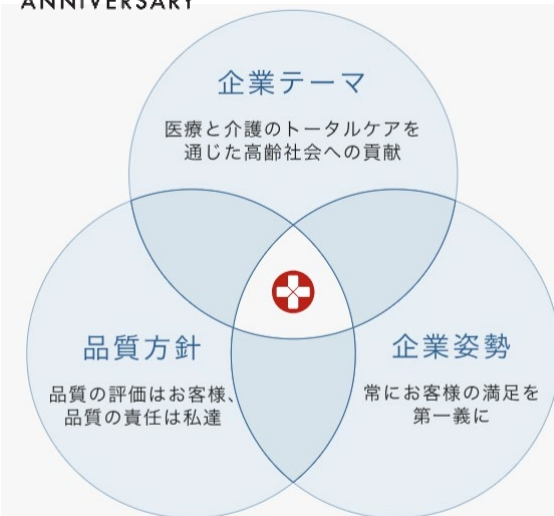


【会社概要】

会社名:白十字株式会社 代表取締役社長 天田 泰正

- 所在地：東京都豊島区高田3-23-12
- 業歴：130年(創業:明治29年5月)
- 事業内容：衛生材料・製綿・紙綿及び紙綿製品・医療補助品・医薬品・医療機器・医薬部外品・化粧品及び日用品雑貨の各製造販売並びに輸出入・その他関連用品販売、等
- 主要製品：ガーゼ、包帯、消毒用アルコール、介護用おむつ、尿とりパッド、衛生用ウェットティッシュ、衛生材料（清浄綿、ガーゼ製品）、等
- 生産拠点：群馬工場（生産本部・第一工場、第二工場、第三工場）
物流センターおよび開発拠点(群馬)
- 営業所：東京本社 3 営業部、10 営業所、6 連絡所（北海道から沖縄まで）
- 従業員数：約600名（男性約400名、女性約200名）／白十字グループ全体約800名
- グループ：当社含み4社(国内・白十字販売、白十字物流、白十字興産)

SINCE 1896
130
ANNIVERSARY



医療と介護のトータルヘルスケア
白十字株式会社

【事業領域】

医療現場、介護現場、一般家庭 等

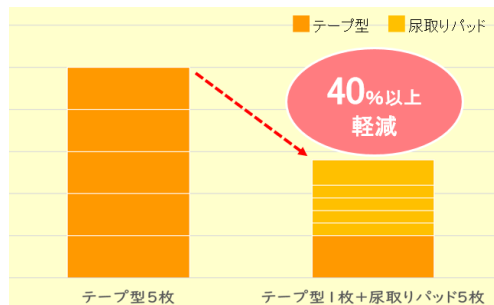
- ガーゼ・脱脂綿・包帯等の衛生材料
- 大人用紙おむつ等の介護用品 等

医療と介護のトータルヘルスケアカンパニーとして、製品を通じて心と身体の健やかな毎日を支えてまいります。



これまでの脱炭素の取り組み

- ◆ 製品のスリム化や使用材料の薄肉化・極小化による使用材料の削減
- ◆ 原材料の梱包材の減量化
- ◆ パッドタイプの併用や高吸収製品に伴う交換回数の削減による廃棄量の削減



- ◆ バイオマスインキの使用 等



このパッケージに
使用している
インキの一部には、
植物由来の原料を
使用しています。

本事業応募のきっかけ

団塊の世代の方々が後期高齢者になった
2025年を迎え、紙おむつのニーズは
年々高まっているが、紙おむつはディスポー
ザブル製品でもあり、石油由来の材料を多
く使用しているため、環境負荷の軽減が課
題となっている。

しかし、製造一として、何を優先して進める
ことが、環境負荷の軽減につながることを
か、判断を迷っていた。

そうした中で、本件の募集があり、
専門家の指導を受けながら、
進めていきたいと思い、
本事業に応募した。



応募・採択時の事業への想定

紙おむつにおけるホットスポット分析による
CO₂削減ポイントを把握することで、今後
の製品づくりにつなげたいと考えた。

特に、主力製品である「サルバやわ楽パン
ツ」を環境に配慮した製品として、今後、リ
ニューアルしたいと考えた。



CFP算定の対象製品：サルバやわ楽パンツ

【算定対象として、本製品を選んだ理由】

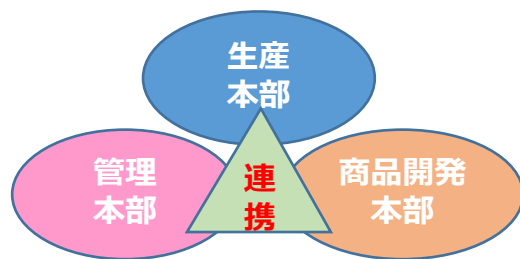
現在、大人用紙おむつの市場は102～103%で伸長しているが、なかでもパンツタイプの紙おむつの伸長が顕著。

本製品は、ドラッグストア等の一般店頭と施設・病院等の業務用のどちらにも商流を持つパンツタイプの製品であり、当社の主力製品であるため、算定製品として選定。



本事業の取り組み体制

- 生産本部 工場・製造部門
- 管理本部 総務・経理・システム部門
- 商品開発本部 商品開発・品質保証・マーケティング部門

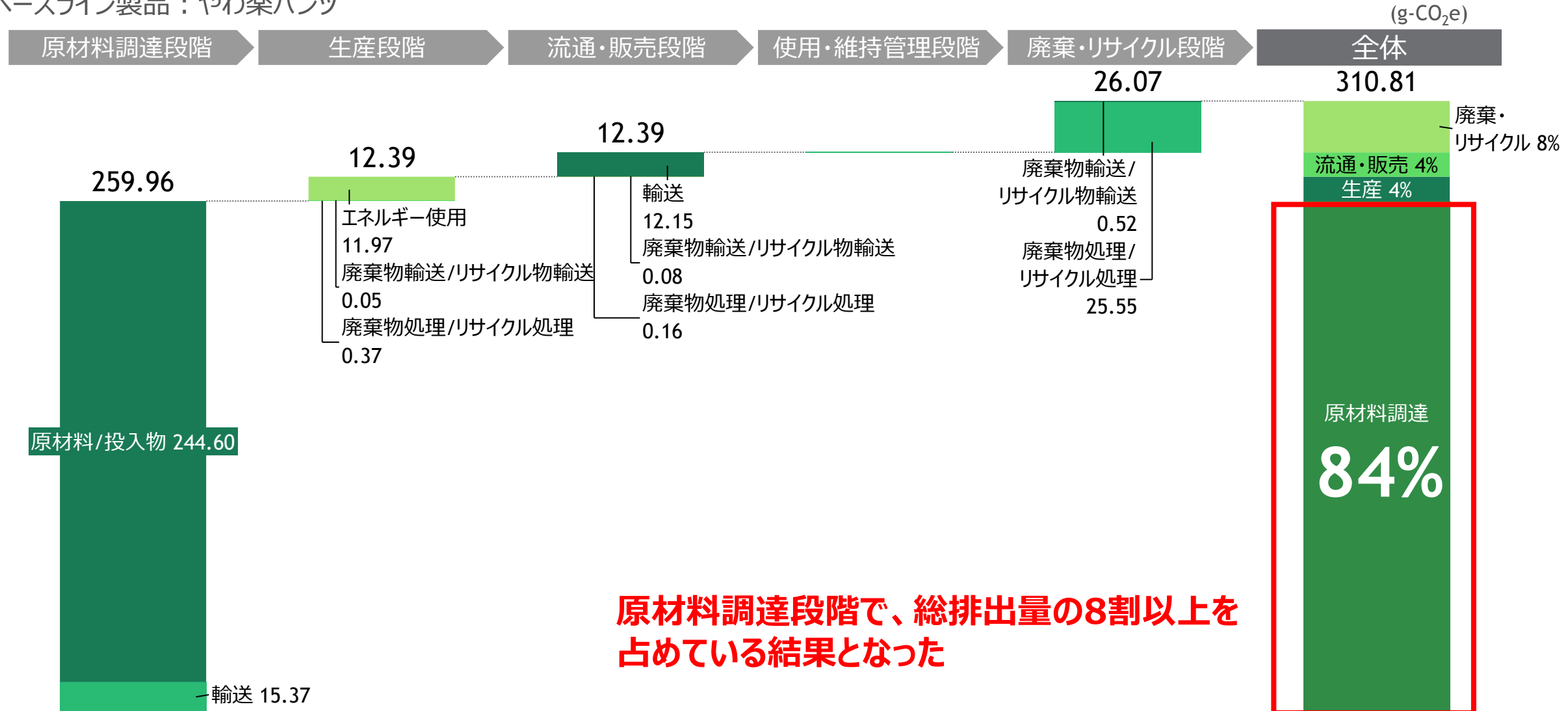


各本部（部門）の連携が不可欠であった

- ・ 長谷井 純（生産本部長/本部全体の統括責任者）
- ・ 大野 宰（管理本部長/本部全体の統括責任者）
- ・ 三井 健宏（商品開発本部長/本部全体の統括責任者）
- ・ 荒井 範之（生産本部 技術部 課長）
- ・ 大津 学（生産本部 技術部 課長）
- ・ 柴野 壮史（商品開発本部 マーケティング部 課長）

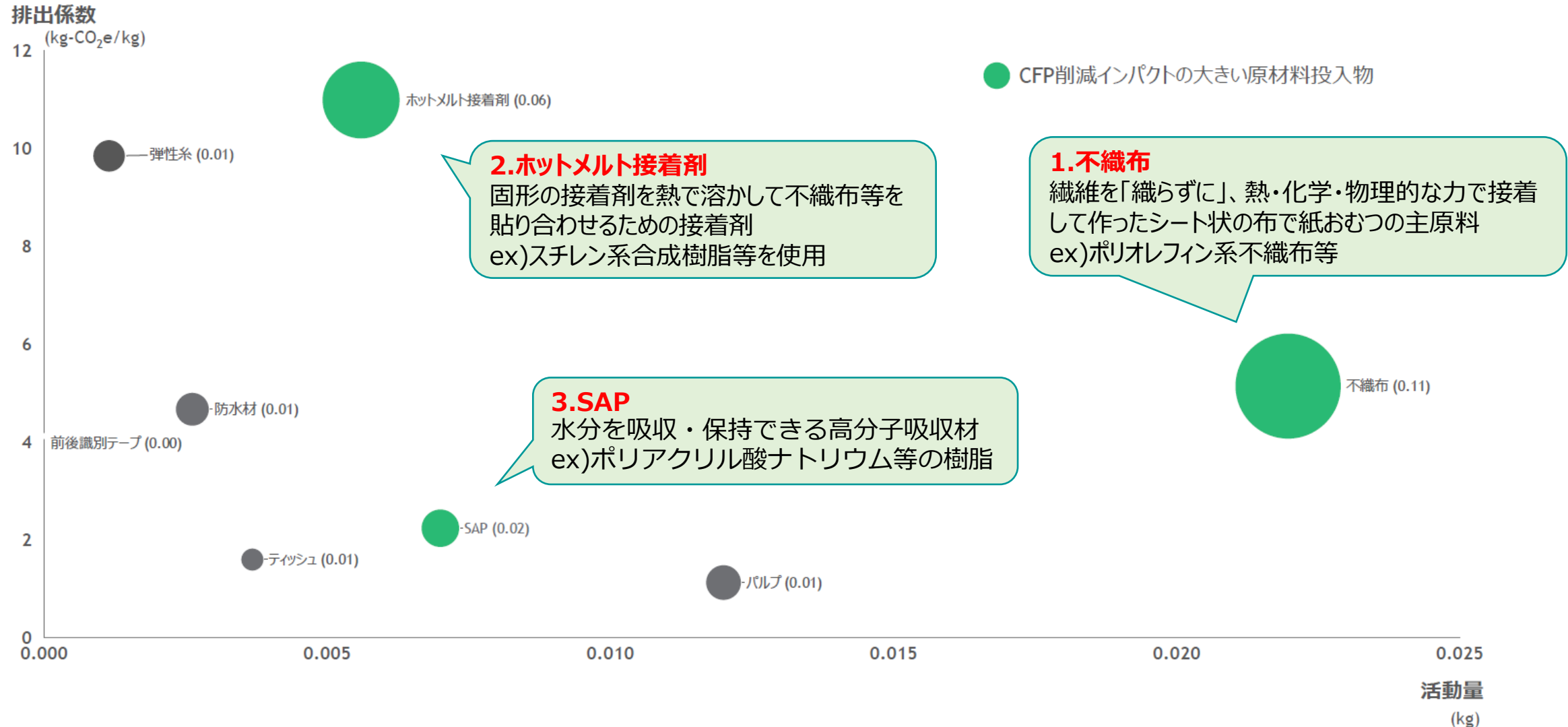
サルバヤわ楽パンツ：主なプロセスの排出量

ベースライン製品：やわ楽パンツ



活動量の大きい不織布の他、排出係数の大きいホットメルト接着剤等の排出量が大きい

サルバやわ楽パンツ：原材料投入物に係るGHG排出量 (244.6 g-CO₂e) の内訳

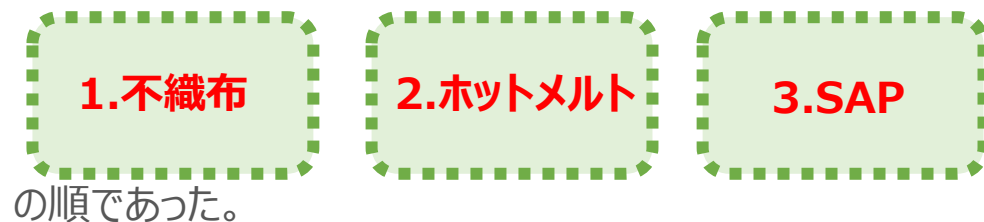


事業を通じて改めて確認できた点

- ◆ CFP算定結果①
原材料調達段階で総排出量の
8割以上を占めていることを認識した。



- ◆ CFP算定結果②
やわ楽パンツ製品 1ピースあたりの原材料由来の排出量は

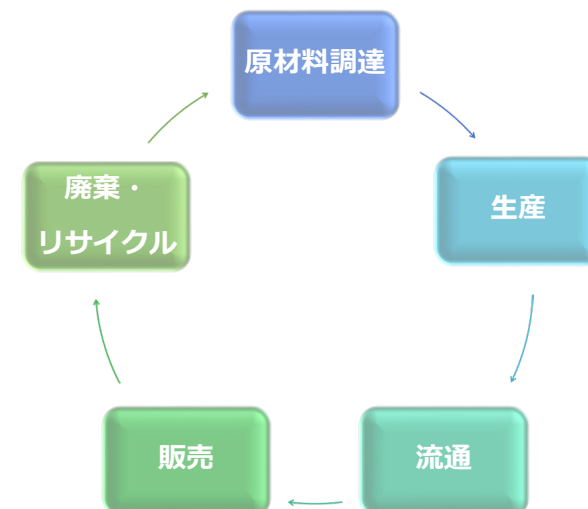


ただし、本製品は排尿量 2 回分の吸収量のうす型の紙おむつであることから、紙おむつの種類や吸収量によってはSAP量やパルプ量等が変わるため、原材料由来の排出量も変動すると思われる。

事業を通じて新たに得られた気づき

紙おむつを製造している一として、脱炭素・環境配慮をおこなううえでは、原材料が占める割合が多いことを認識した。

ただし、ホットスポットである不織布等の原材料を大幅に削減することは、紙おむつの品質に影響するため、「原材料調達」はもとより、「生産」「流通」「販売」「廃棄・リサイクル」等、ライフサイクル全体で取り組む必要を感じた。



現時点での成果

- ◆ ホットスポット分析によりCO₂削減ポイントを把握することができたため、今後の製品づくりのヒントになった。
- ◆ CFP算定や削減施策検討といったプロセスを通じて、各本部の垣根を超え、脱炭素といった同じベクトルで物事を見ることができるようになった。
- ◆ サプライヤーから、環境に配慮した素材の提案や情報提供が増えた。
同時に、現時点では環境配慮した素材を使用すると価格アップにもつながる課題を認識した。



本事業参加の意義

環境負荷の軽減が課題となっている紙おむつについて、製造・販売している一としては、「介護する人・介護される人にもやさしく」、そして「モレない快適な製品づくり」を日々おこなっているが、本事業に参加したことで、「環境にもやさしい製品づくり」を進めたい思いが、より一層、強くなった。

特に専門家に伴走支援いただいたことで、CFP算定結果から自分たちだけでは気づけなかった課題の抽出ができた。

助成金によるサポートも魅力的ではあるが、本事業に参加したことで、脱炭素に向け社内の意識が高まったことが、大きな収穫であった。



2026年度

[製品について]

品質を維持・向上しつつCFP算定結果でわかったホットスポット（不織布やホットメルト接着剤）の削減が可能か、試作品の製造を軸に検証を実施していく

[製造工場について]

製造工程における端材（トリム等）のリサイクルやそれに伴う収集運搬の効率化を進めていく

[環境対応の発信について]

ホームページに環境に配慮したページを作成し、情報を発信していく



2027年度以降

対象製品である「サルバやわ楽パンツ」について、品質を維持・向上させ、現在よりも少しでも環境に配慮した製品にリニューアルしたい

